



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2017年 8月 24日

氏名： 伊藤喜宏

所属機関・職名：京都大学防災研究所・准教授

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Expedition 375
乗船時の役割	Physical Property and Observatory specialist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2017年 8月 22日 ~ 2017年 8月 23日
実施場所	高知コア研究所
<p>実施による成果と今後の計画</p> <p>Pre-cruise training を高知コア研究所にて,Exp. 372 の乗船予定者と合同で2日間実施した。</p> <p>1日目は午後より Lallan P Gupta 氏、久光敏夫氏による IODP の概要の説明および船上におけるコア計測の概要に関するレクチャーが行われた。2日目午前中はトンガ沖で採取された実際のコアの観察、および保管庫の見学を行なった。2日目午後は IODP Exp. 372 の参加者も含めて各自の研究計画について紹介を行い、内容について議論を行った。</p> <p>結果として、IODP におけるコアの取り扱い方や船上における作業に関して具体的なイメージを持つことができた。また、日本側から乗船する研究者間のネットワークを築くことができた。今後は互いに情報交換をしつつ、乗船に向けた準備を各自が行う予定である。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2017 年 9 月 14 日

氏名：野田 篤

所属機関・職名：産業技術総合研究所 主任研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Exp. 375 Hikurangi Subduction Margin
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2017 年 8 月 22 日 ~2017 年 8 月 23 日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画	
<p>IODP Exp. 372 & 375 の乗船者による合同のプレクルーズトレーニングに参加した。</p> <p>トレーニングでは、初日に IODP の全体的な枠組みと Joides Resolution 号での乗船作業の概要が紹介された。私にとっては初めての IODP 航海であるため、このようなイントロダクションは大変有意義であった。</p> <p>二日目の午前中には、実際に掘削されたコア（今回の掘削予定地点と近いトンガ海溝付近の前弧海盆堆積物）を観察した。陸源性の砂層や火山砕屑岩が泥質堆積物中に頻繁に挟在するコアであり、コアと船上で作成された柱状図とを比較して観察した。これにより、実際に乗船したときの作業をイメージすることができた。また、標準的なスミアスライドや実験室・コア保管庫の観察も行なった。二日目の午後には、各自が提出したサンプルリクエストに基づいて研究目的や研究計画を話し合った。</p> <p>今回のトレーニングで、各自の乗船目的を理解しあったことは、今後の準備にむけて非常に有益であった。乗船までに、自らの研究計画の内容を詰めるとともに、準備を進めていく。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2017 年 9 月 14 日

氏名：橋本善孝

所属機関・職名：高知大学・教授

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Expedition 375 Hikurangi subduction zone
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2017 年 8 月 22 日 ~ 2017 年 8 月 23 日
実施場所	高知コアセンター
<p>実施による成果と今後の計画</p> <p>2017年8月22日から23日にかけて、IODP Expedition 372 および Expedition 375 の乗船研究者による合同プレクルーズトレーニングが高知コアセンターで行われた。IODP Expedition 372 から3名、Expedition 375 から3名の合計6名の乗船研究者が参加した。</p> <p>初日は午後から始まり、会議室でパワーポイントによる IODP の基本事項に関するレクチャーを受けた。キュレーションの方から IODP 全般、サンプルポリシー、サンプルリクエスト、モラトリアムの取り扱い、論文投稿の義務、コアの分割と保管、サンプル深度の種類などについて説明をしていただき、さらに船上の作業について、コアフローや分野ごとの仕事の実際、避難訓練、船上の生活などについて具体的な話をいただいた。その後、質疑応答がややあり、翌日の日程を確認してから、初日の日程を終えた。</p> <p>翌日は午前中に実際のコアの観察を行った。コアの産状と記載事項の確認、スミアスライドの記載方法および岩相名の決定方法の確認などを行った。ちょうど別のグループがサンプリング室において実際のサンプリングを行っていたので、その見学もさせていただいた。その際、キュレーションの方からサンプル採取の器具について具体的な説明をいただいた。また、午前のうちにコアセンターのコア保管庫(冷蔵庫)の見学も行なった。</p> <p>二日目の午後は参加者が各々の研究計画を発表しあう時間を持った。まずはプロポーネントの一人である伊藤さんに、Hikurangi subduction zone の全般的な説明と本地域のケルスロー地震の具体的な観測結果についてお話いただいた。その後、各人の研究テーマ、手法、サンプリングリクエストについて、比較的詳細な発表が行われた。参加者同士で発表に対する議論が活発に行われた。その中で、参加者同士の研究内容についてお互いにサポートする点を見出し、共同研究の可能性があると少なからず指摘された。</p> <p>今回の参加者6名のうちジョイデスレゾリューションの乗船経験者は2名、ちきゅう乗船経験者が2名、(両方の乗船経験者は私1名)で、初めて乗船研究するメンバーと細かな情報交換が行われた。2名の Sedimentologist が参加したので岩相記載についての情報交換が特に行われたほか、食事の面での良い点、悪い点、運動、洗濯、娯楽、イベントなどの生活面についても、経験者と未経験者の間でできるだけの情報交換を行なったと思う。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後2週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。